

# 玉里のモアイ？ 仁王像



力士像 (阿形 あぎょう)



金剛像 (吽形 うんぎょう)

森からとつぜん現われる石像



通学路のわきに建っている高さ1.7m、重さ3,000kg（3トン）石像です。2つあり、みんなは仁王像とよんでいます。小美玉市の栗又四ヶ（くりまたしか）にあります。わたしたちは、あまりおどろくことはありません。しかし、竹やぶや木々の間にとつぜん現われるので、初めての人はびっくりしたり不思議そうに通り過ぎます。近くには立て札が立ててありますが、くわしくは分からないので、今回調べることにしました。



## 安楽寺跡 仁王像

仁王像はそれぞれ高さ1.7m、重さ3,000kg（3トン）で、伊豆石で作られています。かつて、ここには安楽寺という広大な敷地を持つ寺があり、地藏堂と釈迦堂、阿弥陀堂が建ち並んでいました。仁王像のある場所には仁王門が建ち、その奥に阿弥陀堂がありました。仁王門は、江戸時代後期に阿弥陀堂とともに消失し、それ以来2体の仁王像が残っているのです。

仁王像は、元禄5年(1692年)に高浜村の河岸問屋「笹目八郎兵衛」により江戸から船で運ばれ、阿弥陀堂に寄進されたと言われてしています。

小美玉市栗又四箇の沼田家には、これについての棟札が残っていました。これによれば、仁王像は元禄5年（1692年）に高浜の大手河岸問屋・笹目八郎兵衛によって搬送寄進されたこととなります。合計6,000kg（6トン）の石像は、高瀬船で江戸から利根川を経て霞ヶ浦を入り小美玉市高崎まで運ばれてきたといわれています。

参考 いしおか 100物語 <http://www.geocities.jp/ishiokastory/047.html>

小美玉市教育委員会

## まとめ

仁王像が昔のものだとは知っていましたが、300年以上前に江戸（東京）から運ばれてきたことは知りませんでした。トラックもクレーンなどの機械がない時代に、こんな重い石の仁王像を運んできたなんて信じられません。今でもすごいお金がかかりそうです。仁王像を寄付した人はものすごいお金がかかったと思います。そんなお金持ちがいた昔のこの地方

は、豊かだったのだと思いました。どうして、そんなに豊かだったのか、もっとくわしく調べていきたいと思いました。

また、仁王像の所に、大きなお寺があったなんて、とても信じられません。豊かな地方なのになぜお寺は無くなってしまったのかも不思議です。今後も調査を続けてみたいと思います。